

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|-----|----------------|
| ○事業所名 | たいむ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和 7年 11月 1日 | | ～ 令和 7年 12月 1日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 44名 | (回答者数) 40名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和 7年 11月 1日 | | ～ 令和 7年 12月 1日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 14名 | (回答者数) 14名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 8年 2月 16日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 他職種連携が取れる | 日々の支援や関わり方法を他職種と連携して捉えることで支援の幅が広がるよう取り組んでいる。作業療法士による専門的支援実施計画では、個別支援計画書からより細部に配慮した支援の提供を目指している。看護師によるバイタルチェックや発作時の対応、キズの手当等、医療面のサポートを行っている | 日々の支援内容や関係各機関から定期的にチームカンファレンスを開催することで情報交換、共有を図っていく。また、支援の内容や振り返りの内容を共有できるよう情報共有ノート等を活用していくことでより良い支援を目指す |
| 2 | 医療機関(小児リハビリ)、児童発達支援、相談支援事業所が併設している | 利用前より併設事業を利用している方が多く、担当からの聞き取りやカルテ等からの情報を共有できるケースが多い。また、相談支援専門員も身近にあり、リアルタイムで情報を共有できるよう努めている | 今後も必要に応じて情報共有を行っていく。また、何かあった際にはスムーズな情報提供ができるよう各事業において情報の整理、準備しておく |
| 3 | 個別や集団で過ごせるスペースがある | 利用児童のニーズに合わせてスペースを有効に活用している。周囲からの刺激を抑えることやクールダウンが必要な場面では個別スペースが設置でき、またパーティションで仕切ることによって集中して作業に取り組む場面も見られる。また、広い空間を確保することで身体を使った運動遊び等の集団活動にも活用できている | 利用児童の障害特性や興味に合わせたスペースの有効活用に取り組んでいく。また、安全かつ効率的に見守りができる配置設定に取り組んでいく |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 家族やきょうだい、地域との交流の機会が少ない | お出かけ時の買い物で地域の方と交流する機会はあるが、家族やきょうだいが参加できイベントや行事の開催や交流できる機会は少ない | 家族同士や地域とも広く交流できるイベント開催や取り組みの実施に向けて企画検討していく。また、外出活動やボランティアを通して地域と交流できる機会も増やしていく |
| 2 | 非常時に向けた訓練や取り組みの様子が家族に伝わっていない | 非常時訓練の様子や取り組みの詳細が家族に十分に伝えられていない。また、訓練の様子を知るためのツールが防災新聞のみとなっている | 防災新聞だけでなく、月間予定表を活用して訓練の様子等の情報を分かりやすく発信する。また、非常時や様々な場面でのマニュアルを作成し、何かあった際に見やすい所に掲示するなど備えておく |
| 3 | 家族に対して家族支援プログラムや家族等の参加できる研修の機会や情報提供が十分ではない | 家族支援プログラムに対するスタッフの知識や技術が十分ではない。研修や勉強会等の機会や情報提供も十分ではなく、広く周知できていない | 専門性向上につながる研修や勉強会等に参加することで、スタッフの専門的知識や技術の拡充を目指す。また、家族が参加できる研修や勉強会等の情報提供を積極的に行っていくとともに、情報の提供方法や企画等も検討していく |